

お元気ですか



No.94 2024年度 **特別号**

医療法人社団 健育会
西伊豆健育会病院



Follow Me/
はじめました

Instagram

ぜひフォロー&いいね！
お願いします



@NISHIZUBYUIN

Contents

- 退職のご挨拶
内科 鶴山 優



退職の挨拶

3月で鶴山 優先生が退職します

はじめに

とうとうこの記事を作成する日がやってきてしまいました。2021年4月から4年間に渡り西伊豆健育会病院に勤めさせていただきました。まずは、関わってくださった全ての皆様に感謝申し上げます。今回このような機会を頂いたので、西伊豆での経験を「ナラティブ」に語りたいと思います。



当院との出会い

私は静岡市で生まれ、よく家族旅行で伊豆には訪れていました。しかし、西伊豆地域においては堂ヶ島以南には出向いたことがなく、当時は当院の存在は知りませんでした。出会いのきっかけは大学5年生の頃に参加していたセミナーで仲田和正院長のレクチャーを聞いたことでした。大学5年生では、実際に大学病院の病棟で実習を行うカリキュラムになっていますが、当時の実習は自分にとっては正直退屈なものでした。なぜなら、基本的には見学スタイルであり教育的な内容ではなかったからです。大学での学びに物足りなさを感じていた私は、当時から関東、名古屋、関西などで開催されている学生向けのセミナーに積極的に参加する日々でした。その一つが仲田和正院長のレクチャーだったのです。プライマリケアの現場で役立つ整形外科領域の知識についての内容でしたが、超参加型スタイルで「こんなに面白いレクチャーが世の中にあるのか」と衝撃を受けたことを今でも覚えています。

いつかこういう教育ができる医師になりたいな、こういう先生がいる病院で勉強してみたいなと何となく思ったのが、当院との最初の出会いでした。

総合診療医（家庭医療専門医）を目指す、そして直面した壁

上述したセミナーでもう一つ衝撃的だったのが、院長は整形外科領域が専門にも関わらず、内科を含めた他領域に関する知識がとても豊富なことでした。今日の医療は成長著しく、日々臓器別に細分化されつつあります。そんな中、あらゆる領域における最新の知見を長年まとめ続けている院長の姿は、当時の自分にとってとても輝かしかったことを覚えています。また、同時期に診断学や身体所見の楽しさに魅せられたり、何でも診る総合診療医は元々自分がイメージする医師像に近かったり、社会の高齢化に伴うニーズとして総合診療は必ず求められるという確信から、総合診療医を目指すことにしました。

そんな中、私は東京医療センターにて医師人生をスタートすることになります。同院は国内屈指のスタッフ数を誇る総合内科がある医療機関であり、初期臨床研修を2年間終えてから総合内科に入局し、4年間の家庭医療専門研修を行いました。家庭医療専門医として順風満帆なキャリアを積んでいたかと思いきや、物足りなさを感じるようになりました。それは、整形外科領域を診療する機会がほとんどなかったことです。令和4年の厚生労働省国民生活基礎調査によれば、男女ともに肩こり・腰痛が2大自覚症状です。いわゆるかかりつけ医を担う身として、これらを適切にマネジメントできるだろうかという不安が押し寄せてきました。

整形外科を学びたい×医師不足地域＝西伊豆健育会病院に行け！

私は学費の一部を補填するために静岡県から貸与される医学修学研修資金を利用しており、卒後16年間のうち9年間（A病院4年間＋B病院5年間）を県が指定する医師不足地域に位置する医療機関で業務する必要がありました。整形外科を実践的に学ぶことができ、かつ奨学金制度の条件を満たせる病院として当院は絶好の勤務地でした。こうして2021年4月、医師7年目で当院に赴任することになりました。赴任当日、全体朝礼で「この先生は借金返済の為にここに働きに来た初めての人です」と院長に紹介されたことは、今でも記憶に新しいです。

最初の症例は釣り針刺傷で、いきなり西伊豆の洗礼を浴びることになります。その後も、4年間かけて橈骨遠位端骨折や肩関節脱臼の整復、ギブス固定、魚骨除去、筋膜リリース、関節注射など、次々と技術を習得することができました。時にYouTubeを開いたことも…。（手技系はテキストなどの静止画を見るより、動画を見た方がわかりやすいことも多いです）

単なる実働部隊からリーダーへの飛躍

当院に来てもう一つ大きく成長できたことは、様々なチームに所属し、そのリーダーとして全体をマネジメントする立場を経験できたことです。

医師7年目とは、専門研修課程を修了し、専門医として社会貢献を始める年代です。同時に研修医、専攻医の指導、病院運営における様々な場面でリーダーシップを求められます。ふじのくに感染症専門医共同チーム（FICT）として賀茂医療圏の施設で発生したCOVID-19クラスターの感染対策、院内感染対策チーム、県のオンライン健康相談事業、当院の研修医・専攻医教育など、幾多の多職種チームにおけるリーダーとして新たに挑戦する機会をいただきました。時に、運営陣と大喧嘩することがありました。悔し泣きもありました。その過程で、リーダーとしてどう振る舞うべきなのか、日々試行錯誤しました。

医師7-10年目という比較的若手のうちからこのような経験をできたことは、赴任当初は全く想像していなかった収穫でした。

Next step

「現状維持は退化」は、東京医療センター時代の指導医から頂いた言葉です。当院に赴任したことで大きく成長させていただきましたが、現状維持することなくこれまでの経験を爆発的にアウトプットして静岡県の医療を底上げしたい気持ちが日々強くなっています。そんな中、「コミュニティホスピタル（総合診療を軸に超急性期以外の全ての医療、リハビリ、栄養管理、介護などのケアをワンストップで提供する病院）を作るために協力してほしい」と依頼をいただき、来年度より市立湖西病院に異動することを決めました。当院は既にロールモデルとなるコミュニティホスピタルです。それは自然発生的にできたもの

ではなく、連携施設の皆様を含めた全ての医療従事者が、この地域の医療を支えるために必死に努力をし続けて来たからこそ成し得たことだと思っています。これに少しでも近づき、そしていつしか追い越せるよう、新天地でも全力で頑張ります。体格だけではなく、医師としても立派になれるように。



退職のご挨拶



西伊豆の思い出



お元気ですか 第94号 2025年3月発行

発行 医療法人社団健育会 西伊豆健育会病院 医療連携室
〒410-3514 静岡県賀茂郡西伊豆町仁科138-2
TEL 0558-52-2626(医療連携室直通)

ホームページ <http://www.nishiizu.gr.jp/index>
ブログ <http://ameblo.jp/kenikukai-nishiizu/>

